



## A 型肝炎について

A 型肝炎は A 型肝炎ウイルスによる感染症です。小児期の感染では無症状に経過することが多いのですが、成人が感染すると急性肝炎を起こす可能性が高くなります。ウイルスは、感染者の糞便中に排泄されますので、感染はこれに汚染された生水や野菜、生物（カキ、刺身など）を食することで起こります。症状としては38℃以上の高熱を伴って急激に発病し、全身倦怠感、食欲不振、吐き気や嘔吐、黄疸などが現れます。腹痛や下痢なども見られます。安静にしていれば1～2か月で完治しますが、高齢者で初感染した場合は重症化することもあります。

### 流行状況は？

発展途上国では、集団発生も見られますが多くは散発的流行です。先進国では、人口10万人あたり10～50例ですが、途上国では30～50例の割合で流行しています。日本人の場合、高齢者（60歳以上）は抗体（抵抗力）を保有している割合が高く、感染者は青・壮年期層に多くみられます。

### 予防方法は？

50歳以下の方が途上国に旅行する場合は予防接種を勧めます。A 型ワクチンを2～4週間隔で2回接種することで約3～5年間は効果が持続し、さらに6か月後に3回目の接種を行うと15年間効果が期待できます。

